

第4回の課題

2017年10月19日実施

2017年10月16日、AがBの普通預金口座に対する200万円の振込みをBの口座があるC銀行**支店に依頼し、200万円は即日同行のBの口座に入金記帳された。この時点でBの口座残高は300万円であったが、翌17日に携帯電話料金3万円が引き落とされて口座残高は297万円となった。この場合において、次の各設問（それぞれ独立した問いである）に答えなさい。

(1) Aの振込みは、Dに対して行うつもりであったが、普通預金口座の番号を写し間違えた結果、偶々同支店に口座を有していた同姓同音のBに対する振込みを誤って依頼してしまったものであった。Bは、Aに対してその時点で債権債務関係がないことを知っており、同月18日に、心当たりのない振込みに気付いて、Cに連絡した。Cは、Aに電話で問い合わせ、誤振込みであることがわかった。ところが、その直後に、Bに対して債権を有していたEが、Bから預金150万円の払戻しについて交付されていた有効な委任状を持参してCに払戻しを求めた。Eの払戻し請求は認められるか。

(2) Aの振込みは、Fの振り込め詐欺によるもので、同月17日には、Bがすでに297万円全額の払戻しを受けていた。Aは、事情を知らなかったCに対して何らかの請求をすることができるか。

【出典】

「預金契約」ロープラⅡ（第2版）*154頁〔中舎寛樹〕の発展問題を基礎に、当事者を増やしたり、事例の一部を細かく修正した。

*研究室にあるはずの第3版が見つからず、図書館を見に行ったら何と朱雀だけ第3版が入っていませんでした。法科大学院生が最も中心的読者である参考図書なのに何だろうと思ひ、ただちに購入請求しておきましたが、今回は第2版準拠としておきます。

【参考判例と文献】

各人で参考判例と文献を調べること。

【課題内容】

次の仕様に従った起案をワードまたは一太郎で作成して、前日の18日（水）18時までに、tbe00600@fc.ritsumei.ac.jpに送付すること。

ファイル名	氏名と年月日の8桁の数字	例 松岡久和20171018.docx
フォーマット	40字×30行。文字サイズは10.5ポイント（デフォルトのはず。括弧内は小さくしてもよい）、文字飾りを用いない。	
必要的記載事項	冒頭に「第4回講義起案」のタイトル及び（改行して右寄せで）氏名を書き、1行空けて本文を書くこと。 答案練習とは違うので、判例は本文中に、参考文献は文献引用の標準に沿って、末尾に明示すること。	
起案の長さ	特に制限しない。	
メール表題	第4回課題（氏名）	